

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 井堀 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

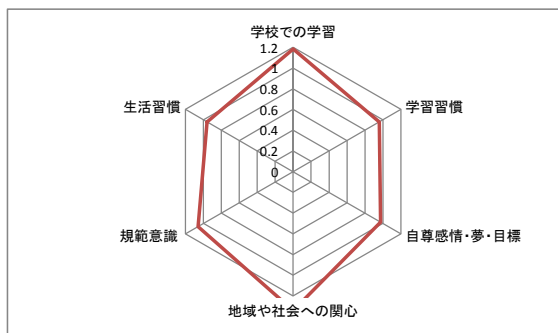
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・長文問題文になると、文章の読み取りに抵抗がある。 ・問題文から、必要な情報を取り出して、問いに即して記述することに抵抗が見られる。 ・漢字は書くことはできるが、文の中で正しく使うというような二段階の問いになると意欲が失われている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、つかう。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、必要な情報を捉える。漢字を文の中で正しく使う。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・自分の考えや相手の考えを比べたり、目的に応じて自分の考えを明確にして表現するという記述式の問題では、無回答や字数内に記入することに抵抗が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話し合いの参加者として、質問の意図を捉える。	
	努力が必要な問題	・自分の意見を比べるなどして考えをまとめる。文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にする。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・設問ごとの問題文が長く、読み取りが厳しい。 ・四則計算はできるが、意味理解ができていないので解答が難しい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・180°の角のの大きさを理解している。円周率の意味について理解している。	
	努力が必要な問題	・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・式や言葉を使って理由を説明する記述式の中には、解答に無回答が見られる。 ・問題文だけでは理解ができず、絵・図等の手がかりがあると意欲的に取り組む姿勢が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に解釈し、それを基に条件似合う色を判断することができる。	
	努力が必要な問題	・メモの情報とグラフを関連付け総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる。示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・問題の解答形式では、選択式・短答式・記述式があったが、選択式はすぐに解答することができたが、記述式では答え方がわからず無回答が見られた。 ・知識は平均的であったが、活用力では課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・より妥当な考えをつくり出すために、二つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる。	
	努力が必要な問題	・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥の雛を観察できる方法を構想できる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの宿題については、ほぼ全員が行っている。宿題をする習慣はほぼ定着していると思われる。しかし、家庭での学習時間を見ると30分程度であることから、宿題以外の学習をしていない状況が考えられる。 ・学習中は、話し合う活動に対しては意欲的であるが、書いたりまとめたりする学習には消極的である。 ・学校のきまりを守ろうとする意識が高い。地域・社会への関心や関わりについても高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進教員をさらに有効に活用するとともに、二学期に全クラスで授業研究会を行い、全校で授業改善の取組を進める。 ・一単位時間の学習の中で「話し合う」活動および「書く」活動を取り入れる。 ・高学年では、算数の授業で少人数学習を推進する。朝の学習タイムに複数の教員を配置し、補充学習を行う。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信・学年通信・保健たより等を通して、基本的な生活習慣の定着についての啓発を継続する。 ・親子講演会等を実施し、生活習慣について見なおす機会をつくる。 ・「学年×10分+10分の家庭学習」を目標にして、家庭学習の習慣を図る。家庭学習の仕方を各学年の実態に応じて指導する。
--